シラバス

鍼灸学科　昼間部

２年次

履正社国際医療スポーツ専門学校

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	2　　年	単位数	2　　単位
科目名	心理学1		講師名	齊藤　雅子	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	講義	学期	前期	分野	基礎分野
講義目的	日常生活場面において体験した事象を心理学的な視点に照らし合わせて学ぶこと、臨床場面における心理学的視点を学ぶことで、対人援助職従事者としての心構えや患者との関係性の理解を深めることを目的とする。				
到達目標	日常生活において学んだ内容・項目について気づくことができる 心理学的な介入方法について理解できる ストレスのメカニズムについて理解できる				

回数	講義計画
第1回	心理学とは何か
第2回	学習（学びのルール）：古典的条件づけと道具的条件づけ
第3回	記憶の構造とはたらき
第4回	知覚の様式
第5回	感情：情動の理論、感情の表出
第6回	感情：感情の障害
第7回	動機づけ：動機づけとは
第8回	動機づけ：動機づけの種類と動機間の関係
第9回	発達：心の発達段階
第10回	発達：子どもの心の発達、親子関係の発達、中年以降の心の発達
第11回	パーソナリティ：パーソナリティの理論と形成
第12回	パーソナリティ：パーソナリティの諸相と測定
第13回	心理学的介入
第14回	ストレスのメカニズムとコーピング：ストレスとは
第15回	ストレスのメカニズムとコーピング：ストレス・マネジメント（管理）
第16回	評価（到達度の確認）
テキスト	「医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー」 山田冨美雄　北大路書房
参考文献	随時紹介予定
評価基準	期末試験および出席状況、授業態度（提出物を含む）で評価を行なう。
履修上の注意	授業に積極的に参加しましょう。
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	2　　年	単位数	2　　単位
科目名	心理学2		講師名	齊藤　雅子	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	講義	学期	後期	分野	基礎分野
講義目的	スポーツを行なう際のパフォーマンスは心理的状態に影響を受けている。スポーツ活動場面で体験した事象を心理学的な視点に照らし合わせて学ぶことで、新たなスポーツ観を身につけることを目的とする。				
到達目標	動機づけと目標設定の関係について理解できる スポーツメンタルトレーニングの技法を行なうことができる スポーツの心理的効果について理解できる				

回数	講義計画
第1回	スポーツ心理学とは
第2回	運動のメカニズム
第3回	効果的な運動指導
第4回	運動の制御
第5回	動機づけ
第6回	目標設定と動機づけ
第7回	スポーツにおける集団
第8回	運動とパーソナリティ
第9回	スポーツメンタルトレーニング１
第10回	スポーツメンタルトレーニング２
第11回	スポーツカウンセリング
第12回	健康スポーツ心理学の基礎
第13回	スポーツ傷害の心理学、バーンアウト（燃えつき症候群）
第14回	健康増進を目的とした身体活動、運動の参加と継続
第15回	スポーツの心理的効果
第16回	評価（到達度の確認）

テキスト	「これから学ぶ　スポーツ心理学」 荒木雅信　大修館書店
参考文献	「よくわかる　スポーツ心理学」 中込四郎ほか　ミネルヴァ書房 「スポーツメンタルトレーニング教本」 日本スポーツ心理学会　大修館書店
評価基準	期末試験および出席状況、授業態度（提出物を含む）で評価を行なう。
履修上の注意	授業に積極的に参加しよう
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	2　　年	単位数	2　　単位
科目名	アスレティックトレーナー学2		講師名	尾形　秀明	
			実務経験	○	
実務内容	トレーナーの経験を生かしたトレーニングやコーチング理論とスポーツ特化した鍼治療実技を指導				
講義形態	講義	学期	前期	分野	基礎分野
講義目的	スポーツ選手がどのように考え、過ごし、プレーしているのかを映像や画像などを駆使し、理解するとともに、テーピングやマッサージコンディショニングなどの技術を身に付ける。				
到達目標	柔軟性やバランスなどトレーナとして基本的に必要な用語に対する概念を理解し、（選手はじめ）他人に伝えることができる。				

回数	講義計画
第1回	オリエンテーション
第2回	アスレティックトレーナー学1の復習
第3回	テーピング　ホワイト　足首
第4回	テーピング　ホワイト　足首測定
第5回	柔軟性とは
第6回	柔軟性文書作成
第7回	バランスとは
第8回	バランス文書作成
第9回	コンディショニングとは
第10回	コンディショニング文書作成
第11回	テーピング実技チェック
第12回	プレゼンテーション1
第13回	プレゼンテーション2
第14回	プレゼンテーション3
第15回	プレゼンテーション4
第16回	評価（到達度の確認）

テキスト	
参考文献	ストレングストレーニング＆コンディショニング　NSCA決定版　NSCA スポーツ指導者のためのコンディショニングの基礎知識　山本　利春
評価基準	前期末試験(筆記)＋プレゼンテーション＋出席
履修上の注意	実技試験の際のケガを未然に予測し対処する
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	2　　年	単位数	2　　単位
科目名	アスレティックトレーナー学3		講師名	尾形　秀明	
			実務経験	○	
実務内容	トレーナーの経験を生かしたトレーニングやコーチング理論とスポーツ特化した鍼治療実技を指導				
講義形態	講義	学期	後期	分野	基礎分野
講義目的	体幹トレーニングをはじめ、現場で実践されている様々なトレーニングを体験、理解する。				
到達目標	トレーニングを理解し、自らも模範的に実践できる。				

回数	講義計画
第1回	オリエンテーション、アスレティックトレーナー学2　復習
第2回	体幹トレーニング
第3回	スタビライゼーション
第4回	ピラティス
第5回	レッドコード1
第6回	レッドコード2
第7回	フィジカルチェック1
第8回	フィジカルチェック2
第9回	遠征、大会
第10回	トレーニング計画
第11回	競技分析
第12回	テーピング1
第13回	テーピング2
第14回	サーキットトレーニング
第15回	医療機関との連携
第16回	評価（到達度の確認）

テキスト	
参考文献	ストレングストレーニング＆コンディショニング　NSCA決定版　NSCA スポーツ指導者のためのコンディショニングの基礎知識　山本　利春
評価基準	実技試験＋出席
履修上の注意	実技試験の際のケガを未然に予測し対処する
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	2　　年	単位数	1　　単位
科目名	運動学		講師名	梅井　善史	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門基礎分野
講義目的	今後リハビリテーション医学を学ぶにあたって、その基礎となる障害や治療のメカニズムを理解するために必要な知識を身に付ける。				
到達目標	運動を担っている骨・関節・筋肉・神経の構造機能に対する理解をもとに、姿勢・歩行、反射などを取り上げ、臨床での活用をめざす。				

回数	講義計画
第1回	総論・関節と運動の力学
第2回	姿勢とその異常・運動路と感覚路
第3回	反射と随意運動1
第4回	反射と随意運動2
第5回	まとめ
第6回	身体各部の機能　―　脊柱
第7回	肩甲帯・肩の機能
第8回	肘と前腕の機能
第9回	手と手指の機能1
第10回	手と手指の機能2
第11回	骨盤と股関節の機能
第12回	膝関節の機能
第13回	足の機能
第14回	歩行
第15回	顔面および頭部の筋・まとめ2
第16回	評価（到達度の確認）
テキスト	東洋療法学校協会編：「リハビリテーション医学」：医歯薬出版
参考文献	
評価基準	試験と平常評価から成績評価を行う。 試験の受験には授業時間の2／3以上の出席が必要。
履修上の注意	教科書、プリントを中心に講義を実施する。
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	2　　年	単位数	1　　単位
科目名	病理学概論1		講師名	深尾　敦郎	
			実務経験	○	
実務内容	鍼灸院にてはり師、きゅう師として臨床				
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門基礎分野
講義目的	鍼灸師として必要な病理学の知識を理解する。				
到達目標	疾病について、患者に説明ができる。				

回数	講義計画
第1回	病理学とはどのような学問か
第2回	病理学の基礎
第3回	病因（分類、内因）
第4回	病因（外因　－　栄養供給障害）
第5回	病因（物理的病因作用）
第6回	病因（化学的病因作用）
第7回	病因（生物学的病因作用）
第8回	中間チェック
第9回	循環障害（充血とうっ血）
第10回	循環障害（貧血、出血）
第11回	循環障害（ショック、血栓症）
第12回	循環障害（塞栓、梗塞）
第13回	循環障害（リンパの循環障害）
第14回	退行性病変（萎縮、変性）
第15回	退行性病変（変性　ー　代謝異常と疾病、壊死）
第16回	評価（到達度の確認）
テキスト	東洋療法学校協会 病理学概論
参考文献	
評価基準	小テスト・期末試験の合計が6割以上を合格とする。
履修上の注意	授業時間の2/3以上の出席が必要です。
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	2　　年	単位数	1　　単位
科目名	病理学概論2		講師名	深尾　敦郎	
			実務経験	○	
実務内容	鍼灸院にてはり師、きゅう師として臨床				
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門基礎分野
講義目的	鍼灸師として必要な病理学の知識を理解する。				
到達目標	疾病について、患者に説明ができる。				

回数	講義計画
第1回	退行性病変（肥大、再生）
第2回	退行性病変（化生、移植、創傷の治癒）
第3回	炎症（炎症の一般　炎症の分類－変質性炎）
第4回	炎症（炎症の分類－滲出性炎）
第5回	炎症（炎症の分類－特異性炎）
第6回	中間チェック
第7回	腫瘍（一般、組織学的所見）
第8回	腫瘍（発育と進展）
第9回	腫瘍（発生原因、腫瘍の分類）
第10回	腫瘍（腫瘍の分類）
第11回	アレルギー（免疫反応の仕組み）
第12回	アレルギー（免疫反応の仕組み、異常）
第13回	アレルギー（免疫反応の異常）
第14回	先天異常（代謝疾患）
第15回	先天異常（遺伝性疾患）
第16回	評価（到達度の確認）

テキスト	東洋療法学校協会 病理学概論
参考文献	
評価基準	小テスト・期末試験の合計が6割以上を合格とする。
履修上の注意	授業時間の2/3以上の出席が必要です。
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	2　　年	単位数	1　　単位
科目名	臨床医学総論1		講師名	桝谷　昌吾	
			実務経験	○	
実務内容	鍼灸接骨院にてはり師、きゅう師として臨床				
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門基礎分野
講義目的	鍼灸治療を行う上で重要なことは患者を観察し正しい判断をして適切な治療を行うことである。 臨床医学総論では専門用語、症候、臨床検査法などを理解し適切な治療を行う方法を学ぶ。				
到達目標	・カルテを書く上での専門用語を理解し一定の方式でカルテを書けるようになる。 ・症状から病名を導き出せるようになる。				

回数	講義計画
第1回	オリエンテーション、第1章　診察の概要
第2回	第2章　診察の方法（医療面接、視診、触診、打診）
第3回	診察の方法（聴診、測定法、神経系の診察）
第4回	第3章　生命徴候　（体温、脈拍、血圧、呼吸）
第5回	第4章　全身の診察（顔貌、精神、言語、計測、体型、栄養）
第6回	第4章　全身の診察（身体計測、体型、栄養状態、その他）
第7回	第4章　全身の診察（姿勢、歩行、皮膚・粘膜、爪、リンパ）
第8回	中間チェック
第9回	第5章　局所の診察（頭部、顔面、眼）
第10回	第5章　局所の診察（鼻、耳、口腔、頸部）
第11回	第5章　局所の診察（胸部、乳房）
第12回	第5章　局所の診察（肺・胸膜、心臓）
第13回	第5章　局所の診察（腹部、背部）
第14回	第5章　局所の診察（四肢上肢・下肢の変形）
第15回	まとめ
第16回	評価（到達度の確認）
テキスト	東洋療法学校協会編　臨床医学総論
参考文献	授業での配布プリント等
評価基準	出席は2/3以上出席（出席日数が足りないものは評価は無し） 中間試験および期末試験において評価する
履修上の注意	毎時間前回配布したプリント、教科書を持参すること。
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	2　　年	単位数	1　　単位
科目名	臨床医学総論2		講師名	桝谷　昌吾	
			実務経験	○	
実務内容	鍼灸接骨院にてはり師、きゅう師として臨床				
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門基礎分野
講義目的	鍼灸治療を行う上で重要なことは患者を観察し正しい判断をして適切な治療を行うことである。 臨床医学総論では専門用語、症候、臨床検査法などを理解し適切な治療を行う方法を学ぶ。				
到達目標	・上肢・下肢など各身体部位の神経学・理学検査の種類を理解できるようになる。 ・血液検査の数値から病名を導き出せるようになる。 ・体表に出現する痛みや現象から病名を導き出せるようになる。				

回数	講義計画
第1回	第6章　神経系の診察（感覚検査法）
第2回	第6章　神経系の診察（反射検査法）
第3回	第6章　神経系の診察（脳神経系の検査（I～VI））
第4回	第6章　神経系の診察（脳神経系の検査（～XII）、髄膜、その他）
第5回	第7章　運動機能検査（運動麻痺、筋肉、不随意運動）
第6回	第7章　運動機能検査（ROM、MMT、ADL）
第7回	第7章　運動機能検査（徒手による整形外科的検査法）
第8回	第8章　その他の診察（救急、小児、女性、高齢者）
第9回	第9章　臨床検査法　（一般検査、血液検査～）
第10回	（～血液生化学検査～）
第11回	（～画像診断）
第12回	第10章おもな症状の診察法（頭痛、眩暈、耳鳴り、難聴、咳痰～）
第13回	（～息切れ、動悸、胸痛、腹痛、便秘・下痢、尿、浮腫～）
第14回	（～肩、食欲不振、のぼせ・冷え、不眠、疲労と倦怠、悪心嘔吐）
第15回	第11章　治療学　第12章　臨床心理
第16回	評価（到達度の確認）
テキスト	東洋療法学校協会編　臨床医学総論
参考文献	授業での配布プリント等
評価基準	出席は2/3以上出席（出席日数が足りないものは評価は無し） 中間試験および期末試験において評価する
履修上の注意	毎時間前回配布したプリント、教科書を持参すること。
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	2　　年	単位数	1　　単位
科目名	臨床医学各論1		講師名	中　紀代子	
			実務経験	○	
実務内容	鍼灸院開業　はり師、きゅう師として臨床				
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門基礎分野
講義目的	西洋医学的知識を基礎とし、各臓器器官系の各分野の具体的疾患について病因・症状・診断法・治療法について学習する。また各種疾患に的確に対応できる医学知識を兼ね備えた鍼灸師の養成を目的とする。				
到達目標	・それぞれの疾患に対し、主な症状が列挙できる。 ・医師や鍼灸師が行う検査、治療について患者に説明できる。				

回数	講義計画
第1回	総論、関節疾患（関節炎、五十肩）
第2回	関節疾患（変形性関節症）、骨代謝性疾患・骨腫瘍（骨粗鬆症）
第3回	骨代謝性疾患・骨腫瘍（くる病、骨腫瘍）
第4回	筋・腱疾患
第5回	形態異常（発育性股関節形成不全、斜頚、側弯症）
第6回	形態異常（外反母趾、内反足）、脊椎疾患（総論）
第7回	脊椎疾患（椎間板ヘルニア、後縦靭帯骨化症）
第8回	脊椎疾患（脊椎分離症・すべり症、変形性脊椎症）
第9回	脊椎疾患（脊柱管狭窄症、腰痛症、頸椎捻挫・むちうち損傷）
第10回	脊髄損傷
第11回	外傷（骨折1）
第12回	外傷（骨折2、脱臼、捻挫）
第13回	スポーツ外傷・傷害
第14回	その他の整形外科疾患
第15回	皮膚科疾患
第16回	評価（到達度の確認）

テキスト	・「臨床医学各論」：東洋療法学校協会編：医歯薬出版 ・全部見えるスーパービジュアル整形外科疾患：高井信明：成美堂出版
参考文献	
評価基準	・期末試験において成績評価を行う。合格点は60点とする。 ・期末試験・追再試験の受験には、授業時間数の2／3以上の出席を必要とする。
履修上の注意	本科目では、既習している「解剖学、生理学、病理学、臨床医学総論」の知識を必要とする。
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	2　　年	単位数	1　　単位
科目名	臨床医学各論2		講師名	古田　高征	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門基礎分野
講義目的	西洋医学的知識を基礎とし、各臓器器官系の各分野の具体的疾患について病因・症状・診断法・治療法について学習する。また各種疾患に的確に対応できる医学知識を兼ね備えた鍼灸師の養成を目的とする。				
到達目標	・それぞれの疾患に対し、主な症状が列挙できる。 ・医師や鍼灸師が行う検査、治療について患者に説明できる。				

回数	講義計画
第1回	関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、全身性硬化症　　p.276
第2回	その他の膠原病
第3回	循環器①（心不全、弁膜症）
第4回	循環器②（不整脈）
第5回	循環器③（先天性心疾患）
第6回	循環器④（虚血性心疾患）
第7回	循環器⑤（大動脈疾患・高血圧）
第8回	血液①（鉄欠乏性貧血、悪性貧血）
第9回	血液②（再生不良性貧血、溶血性貧血）
第10回	血液③（急性白血病）
第11回	血液④（慢性白血病、悪性リンパ腫）
第12回	血液⑤（紫斑病、血友病）
第13回	腎・泌尿器①（糸球体腎炎）
第14回	腎・泌尿器②（腎不全、感染症）
第15回	腎・泌尿器③（腎癌）
第16回	評価（到達度の確認）

テキスト	・「臨床医学各論」：東洋療法学校協会編：医歯薬出版 ・全部見えるスーパービジュアル整形外科疾患：高井信明：成美堂出版
参考文献	
評価基準	・期末試験において成績評価を行う。合格点は60点とする。 ・期末試験・追再試験の受験には、授業時間数の2／3以上の出席を必要とする。
履修上の注意	本科目では、既習している「解剖学、生理学、病理学、臨床医学総論」の知識を必要とする。
備考	病気がみえるシリーズ「6免疫膠原病感染症、2循環器、5血液、8腎泌尿器」

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	2　　年	単位数	1　　単位
科目名	東洋医学概論3		講師名	日開　美月	
			実務経験	○	
実務内容	鍼灸院にてはり師、きゅう師として臨床				
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門分野
講義目的	「東洋医学概論1・2」と同様に、東洋医学をベースとした鍼灸治療を行う上で、必要な知識を学ぶことを目的とする。				
到達目標	鍼灸治療に直接関わる、第4章：診断論の切診を学ぶ。これらの鍼灸治療に直接関わる基礎知識をしっかりと身に付け、東洋医学的鍼灸治療を行うための土台作りを行う。				

回数	講義計画
第1回	第4章　診断論　1. 四診　5）切診（脈状診）
第2回	第4章　診断論　1. 四診　5）切診（脈状診）
第3回	脈状診の実験
第4回	第4章　診断論　1. 四診　5）切診（比較脈診）
第5回	第4章　診断論　1. 四診　5）切診（比較脈診）
第6回	第4章　診断論　1. 四診　5）切診（比較脈診）
第7回	比較脈診の実習
第8回	中間チェック
第9回	第4章　診断論　1. 四診　5）切診（腹診・切経）
第10回	第4章　診断論　1. 四診　5）切診（腹診・切経）
第11回	第4章　診断論　1. 四診　5）切診（腹診・切経）
第12回	第4章　診断論　2. 証の立て方
第13回	第4章　診断論　2. 証の立て方
第14回	第4章　診断論　2. 証の立て方
第15回	まとめ
第16回	評価（到達度の確認）
テキスト	東洋医学概論：医道の日本社
参考文献	
評価基準	中間試験、期末試験の成績を元に評価を行う。 授業は2／3以上の出席が必要。
履修上の注意	
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	2　　年	単位数	1　　単位
科目名	東洋医学概論4		講師名	日開　美月	
			実務経験	○	
実務内容	鍼灸院にてはり師、きゅう師として臨床				
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門分野
講義目的	「東洋医学概論1・2」と同様に、東洋医学をベースとした鍼灸治療を行う上で、必要な知識を学ぶことを目的とする。				
到達目標	鍼灸治療に直接関わる、第5章治療論を学ぶ。これらの鍼灸治療に直接関わる基礎知識をしっかりと身に付け、東洋医学的鍼灸治療を行うための土台作りを行う。				

回数	講義計画
第1回	第5章　治療論　1. 総論および原則
第2回	第5章　治療論　2. 治療法　1）古代鍼灸法（九鍼）
第3回	第5章　治療論　2. 治療法　1）古代鍼灸法（九鍼）
第4回	第5章　治療論　2. 治療法　2）刺法
第5回	第5章　治療論　2. 治療法　2）刺法
第6回	第5章　治療論　2. 治療法　2）刺法
第7回	中間チェック
第8回	第5章　治療論　2. 治療法　2）補瀉法
第9回	第5章　治療論　2. 治療法　2）補瀉法
第10回	第5章　治療論　2. 治療法　3）その他の選穴法
第11回	第5章　治療論　2. 治療法　3）その他の選穴法
第12回	第5章　治療論　2. 治療法　4）灸法、5）治療原則
第13回	第5章　治療論　2. 治療法　4）灸法、5）治療原則
第14回	第5章　治療論　3. 他の東洋医学療法
第15回	まとめ
第16回	評価（到達度の確認）
テキスト	東洋医学概論：医道の日本社
参考文献	
評価基準	中間試験、期末試験の成績を元に評価を行う。 授業は2／3以上の出席が必要。
履修上の注意	
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	2　　年	単位数	1　　単位
科目名	経絡経穴概論3		講師名	加藤　春那	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門分野
講義目的	体表の解剖をふまえた選穴取穴、各経穴の特性である「穴性」、その組み合わせを学ぶ。				
到達目標	各経穴を関連する解剖学的構造を意識して取穴できる。				

回数	講義計画
第1回	要穴、奇経八脈 ・要穴（五兪穴・五行穴、原穴、絡穴、郄穴）、奇経の流注
第2回	要穴、奇経八脈 ・要穴（五兪穴・五行穴、原穴、絡穴、郄穴）、奇経の流注
第3回	顔面部・側頭部の経穴: 奇穴　任脈、胃経、小腸経 （解剖学的な構造物と経穴）
第4回	顔面部・側頭部の経穴: 奇穴　任脈、胃経、小腸経 （解剖学的な構造物と経穴）
第5回	頭部の経穴: 奇穴　督脈、膀胱経、胆経 （解剖学的な構造物と経穴）
第6回	頭部の経穴: 奇穴　督脈、膀胱経、胆経 （解剖学的な構造物と経穴）
第7回	中間チェック
第8回	背部の経穴: 奇穴　膀胱経、小腸経、胆経 （解剖学的な構造物と経穴）
第9回	背部の経穴: 奇穴　膀胱経、小腸経、胆経 （解剖学的な構造物と経穴）
第10回	背部の経穴: 奇穴　膀胱経、小腸経、胆経 （解剖学的な構造物と経穴）
第11回	腹部の経穴: 奇穴　督脈、腎経、胃経、脾経、胆経、肝経
第12回	腹部の経穴: 奇穴　督脈、腎経、胃経、脾経、胆経、肝経
第13回	腹部の経穴: 奇穴　督脈、腎経、胃経、脾経、胆経、肝経
第14回	胸部の経穴: 奇穴　督脈、腎経、胃経、脾経、心包経
第15回	胸部の経穴: 奇穴　督脈、腎経、胃経、脾経、心包経
第16回	評価（到達度の確認）

テキスト	東洋療法学校協会編:「経絡経穴概論」 :　医道の日本社
参考文献	「ツボ単」:形井秀一、高橋研一監修:(株)NTS 「鍼灸学　経穴編」:東亜出版
評価基準	期末試験と平常評価から成績評価（60%:40%）を行います。 期末試験の受験には、授業時間数の2／3以上の出席が必要です。
履修上の注意	「実技室の使用のルール」を厳守すること。 学習した日に復習し、さらに計画的に覚えること。
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	2　　年	単位数	1　　単位
科目名	経絡経穴概論4		講師名	加藤　春那	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門分野
講義目的	体表の解剖をふまえた選穴取穴、各経穴の特性である「穴性」、その組み合わせを学ぶ。				
到達目標	・全ての経絡の経穴名が言える。 ・東洋医学概論で学んだ病証から、治療穴が列挙できる。 ・自分が考えた治療穴について、選穴理由が説明できる。				

回数	講義計画
第1回	上肢陰経の経穴: 奇穴　肺経、心包経、心経 （解剖学的な構造物と経穴）
第2回	上肢陰経の経穴: 奇穴　肺経、心包経、心経 （解剖学的な構造物と経穴）
第3回	上肢陽経の経穴 ・奇穴　大腸経、三焦経、小腸経 （解剖学的な構造物と経穴）
第4回	上肢陽経の経穴 ・奇穴　大腸経、三焦経、小腸経 （解剖学的な構造物と経穴）
第5回	下肢陽経の経穴・奇穴　胆経 （解剖学的な構造物と経穴）
第6回	下肢陽経の経穴・奇穴　胆経 （解剖学的な構造物と経穴）
第7回	下肢陽経の経穴・奇穴　胆経 （解剖学的な構造物と経穴）
第8回	中間チェック
第9回	下肢陰経の経穴 ・奇穴　肝経、脾経、腎経 （解剖学的な構造物と経穴）
第10回	下肢陰経の経穴 ・奇穴　肝経、脾経、腎経 （解剖学的な構造物と経穴）
第11回	下肢陰経の経穴 ・奇穴　肝経、脾経、腎経 （解剖学的な構造物と経穴）
第12回	その他の経穴の組合せ: その他（四華、患門、六つ灸、小児斜差、中風七穴、脚気八処）
第13回	いろいろな選穴: 六九難、兪募配穴、原絡配穴、上下表裏、郄会、 経絡流注
第14回	解剖学的選穴 ・筋、神経、脈管から考えた選穴
第15回	解剖学的選穴 ・筋、神経、脈管から考えた選穴
第16回	評価（到達度の確認）

テキスト	東洋療法学校協会編:「経絡経穴概論」 :　医道の日本社
参考文献	「ツボ単」:形井秀一、高橋研一監修:(株)NTS 「鍼灸学　経穴編」:東亜出版
評価基準	期末試験と平常評価から成績評価（60%:40%）を行います。 期末試験の受験には、授業時間数の2／3以上の出席が必要です。
履修上の注意	「実技室の使用のルール」を厳守すること。 学習した日に復習し、さらに計画的に覚えること。
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	2　　年	単位数	2　　単位
科目名	東洋医学臨床論1		講師名	古田　高征	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	実技	学期	前期	分野	専門分野
講義目的	臨床でよく遭遇する症状、疾患に対して現代医学的な診断・鑑別方法ならびに治療法について学ぶ。				
到達目標	現代医学的に適切な治療ができるようにする。 注意を要するもの、適応となるものの判断を的確にできる。				

回数	講義計画
第1回	現代医学的な治療、東洋医学的な治療とは　　直刺、横刺の技術確認
第2回	頭　痛　　後頚部への刺鍼
第3回	顔面痛　　顔面部への刺鍼
第4回	脱毛症、鼻閉・鼻汁　　糸状灸、頭への灸、鼻周囲への刺鍼
第5回	喘息・咳嗽　　吸い玉
第6回	眼精疲労　　眼周囲への刺鍼
第7回	悪心・嘔吐　　筆記中間試験
第8回	胸　痛　　肋間神経痛の治療　鍼通電
第9回	歯　痛　　顎関節への刺鍼
第10回	腹　痛　　胃の六つ灸
第11回	めまい・耳鳴・難聴　　耳周囲への刺鍼
第12回	便秘・下痢　　腹部への灸
第13回	顔面麻痺　　顔面への刺鍼、通電
第14回	月経困難　　灸頭鍼
第15回	排尿障害　　灸頭鍼
第16回	評価（到達度の確認）

テキスト	東洋医学概論、　東洋医学臨床論
参考文献	
評価基準	前期・後期において、中間、期末筆記試験、実技試験を1回ずつ実施する。
履修上の注意	
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	2　　年	単位数	2　　単位
科目名	東洋医学臨床論2		講師名	副田　惠子	
			実務経験	○	
実務内容	鍼灸院開業　はり師、きゅう師として臨床				
講義形態	実技	学期	後期	分野	専門分野
講義目的	臨床でよく遭遇する症状、疾患に対して東洋医学的な弁証ならびに治療法について学ぶ。				
到達目標	東洋医学的に適切な治療ができるようにする。 注意を要するもの、適応となるものの判断を的確にできる。				

回数	講義計画
第1回	頭　痛
第2回	顔面痛
第3回	脱毛症
第4回	喘息・咳嗽
第5回	眼精疲労
第6回	腹　痛
第7回	鼻閉・鼻汁
第8回	胸　痛
第9回	歯　痛
第10回	悪心・嘔吐
第11回	めまい・耳鳴・難聴
第12回	便秘・下痢
第13回	顔面麻痺
第14回	月経困難
第15回	排尿障害
第16回	評価（到達度の確認）
テキスト	東洋医学概論、　東洋医学臨床論
参考文献	
評価基準	前期・後期において、中間、期末筆記試験、実技試験を1回ずつ実施する。
履修上の注意	
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	2　　年	単位数	1　　単位
科目名	病態生理学		講師名	古田髙征・西村展幸	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門分野
講義目的	鍼灸臨床で遭遇するさまざまな疾患においてみられる症状について、そのメカニズムを解剖学、生理学の知識をもとに理解し、他人に発表・説明できる。				
到達目標	頭痛やめまいなどの症状について理解し、簡単に説明できる。				

回数	講義計画
第1回	オリエンテーション　発熱、貧血、浮腫　グループワーク
第2回	発熱、貧血、浮腫　　グループワーク
第3回	発熱、貧血、浮腫　　発表
第4回	下痢・便秘、代謝、疼痛　グループワーク
第5回	下痢・便秘、代謝、疼痛　グループワーク
第6回	下痢・便秘、代謝、疼痛　発表
第7回	上肢痛　グループワーク
第8回	上肢痛　グループワーク
第9回	上肢痛　発表
第10回	腰痛　グループワーク
第11回	腰痛　グループワーク
第12回	腰痛　発表
第13回	腰下肢痛・下肢痛　グループワーク
第14回	腰下肢痛・下肢痛　グループワーク
第15回	腰下肢痛・下肢痛　発表
第16回	評価（到達度の確認）

テキスト	指定教科書　東洋療法学校協会編　：　解剖学、生理学、臨床医学総論、臨床医学各論
参考文献	
評価基準	規定出席数を満たす。定期試験において60点以上。
履修上の注意	
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	2　　年	単位数	1　　単位
科目名	あはきの適応診断		講師名	梅井　善史	
			実務経験		
実務内容					

講義形態	講義	学期	後期	分野	専門分野

講義目的	鍼灸臨床において病態把握に必要な徒手検査について学ぶ。
到達目標	腰下肢の徒手検査を理解・実践し、それを用いた病態把握を行える。

回数	講義計画
第1回	腰部の検査法
第2回	腰部の検査法
第3回	腰部の検査法
第4回	腰部の検査法　鍼灸実技
第5回	実技チェック
第6回	膝関節の検査法
第7回	膝関節の検査法
第8回	膝関節の検査法
第9回	膝関節の検査法　鍼灸実技
第10回	膝関節の検査法　鍼灸実技
第11回	実技チェック
第12回	足関節の検査法
第13回	足関節の検査法
第14回	足関節の検査法
第15回	まとめ
第16回	評価（到達度の確認）

テキスト	
参考文献	
評価基準	規定時間数の出席。実技チェック・定期試験において60点以上。
履修上の注意	
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	2　　年	単位数	1　　単位
科目名	はりきゅう応用実技		講師名	中西　満美子	
			実務経験	○	
実務内容	鍼灸院開業　はり師、きゅう師として臨床				
講義形態	実技	学期	前期	分野	専門分野
講義目的	一年次に習得した基本の刺鍼・施灸手技を踏まえ、より実践的で臨床に即した様々な知識と技術を学ぶことを目的とする。				
到達目標	患者の年齢や感受性、症状に応じた器具・治療法を選択し、適切に施術できる知識と技術を習得することを目標とする。				

回数	講義計画
第1回	伝統十七手技
第2回	クリーンテクニック
第3回	星状神経節刺鍼
第4回	頸動脈洞刺鍼
第5回	坐骨神経刺鍼
第6回	低周波鍼通電①
第7回	低周波鍼通電②
第8回	小児鍼・接触鍼
第9回	スキン鍼法・セルフケア指導
第10回	皮内鍼・円皮鍼
第11回	灸頭鍼①
第12回	灸頭鍼②
第13回	問診からの治療①
第14回	問診からの治療②
第15回	総復習
第16回	評価（到達度の確認）
テキスト	①はりきゅう実技（基礎編）：医道の日本社　②はりきゅう理論：医道の日本社
参考文献	はりきゅう基礎技術学：南江堂
評価基準	・授業中の態度や積極性・小テスト ・実技試験
履修上の注意	
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	2　　年	単位数	2　　単位
科目名	はりきゅう実践実習1		講師名	椙棟大輔・西村展幸	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	実技	学期	前期	分野	専門分野
講義目的	鍼灸臨床において病態把握に必要な徒手検査について学ぶ。				
到達目標	神経学的検査、可動域検査や徒手筋力検査を理解・実践し、それを用いた病態把握を行える。				

回数	講義計画	
第1回	（西村）血圧測定	（椙棟）オリエンテーション
第2回	（西村）血圧測定	（椙棟）ROM基本
第3回	（西村）血圧測定	（椙棟）ROM上肢
第4回	（西村）腱反射	（椙棟）ROM上肢
第5回	（西村）腱反射	（椙棟）ROM上肢
第6回	（西村）表在反射・病的反射	（椙棟）ROM下肢
第7回	（西村）表在反射・病的反射	（椙棟）ROM下肢
第8回	（西村）知覚検査	（椙棟）ROM下肢
第9回	（西村）知覚検査	（椙棟）実技チェック
第10回	（西村）脳神経検査	（椙棟）MMT上肢
第11回	（西村）脳神経検査	（椙棟）MMT上肢
第12回	（西村）脳神経検査	（椙棟）MMT上肢
第13回	（西村）脳神経検査	（椙棟）MMT下肢
第14回	（西村）カルテ記載	（椙棟）MMT下肢
第15回	（西村）まとめ	（椙棟）MMT下肢
第16回	評価（到達度の確認）	

テキスト	
参考文献	「骨格筋の形と触察法」、大峰閣 「筋骨格系のキネシオロジー」、医歯薬出版株式会社
評価基準	規定時間数の出席、実技試験および筆記試験において60点以上。
履修上の注意	
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	2　　年	単位数	1　　単位
科目名	はりきゅう実践実習２		講師名	井前　由紀	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	実技	学期	後期	分野	専門分野
講義目的	鍼灸臨床において病態把握に必要な徒手検査について学ぶ。				
到達目標	頚部や上肢の整形外科的検査法を理解・実践し、それを用いた評価、病態把握を行える。				

回数	講義計画
第1回	医療面接
第2回	医療面接
第3回	医療面接
第4回	頚部の徒手検査
第5回	頚部の徒手検査
第6回	胸郭出口症候群とその検査
第7回	胸郭出口症候群とその検査
第8回	胸郭出口症候群とその検査
第9回	肩関節の徒手検査
第10回	肩関節の徒手検査
第11回	肩関節の徒手検査
第12回	肘関節の徒手検査
第13回	肘関節の徒手検査
第14回	手関節の徒手検査
第15回	手関節の徒手検査
第16回	評価（到達度の確認）

テキスト	
参考文献	「骨格筋の形と触察法」、大峰閣 「筋骨格系のキネシオロジー」、医歯薬出版株式会社
評価基準	規定時間数の出席、実技試験および筆記試験において60点以上。
履修上の注意	
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	2　　年	単位数	1　　単位
科目名	はりきゅう実践実習４		講師名	沓名　勇典	
			実務経験	○	
実務内容	鍼灸接骨院にてはり師、きゅう師として臨床				
講義形態	実技	学期	後期	分野	専門分野
講義目的	東洋医学概論をベースに、臓腑病証、経脈病症、経筋病証の判断と治療について学ぶ。				
到達目標	東洋医学治療システムの理解とそれに基づいた治療ができるようになる。				

回数	講義計画
第1回	授業概要の説明、望診・聞診：講義
第2回	望診（舌診）：実技
第3回	問診：講義
第4回	問診による証立て
第5回	切診：講義
第6回	切診：実技（脈診：祖脈診）
第7回	切診：実技（脈診：六部定位脈診）
第8回	切診：実技（兪募原穴診）
第9回	切診：実技（切経）
第10回	システム概要の説明、システム講義
第11回	システム講義
第12回	システムを使った証立て（四診）
第13回	システムを使った証立て（四診）
第14回	バリア試験・実技評価試験
第15回	バリア試験・実技評価試験
第16回	評価（到達度の確認）

テキスト	
参考文献	「東洋医学概論」医道の日本社、配布プリント
評価基準	・実技試験および筆記試験にて評価を行う。　・欠席がある場合は減点の対象となる。
履修上の注意	
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	2　　年	単位数	1　　単位
科目名	はりきゅう臨床実習前教育		講師名	井前・西村・古田	
			実務経験		
実務内容					

講義形態	実技	学期	前期	分野	専門分野

講義目的	臨床実習に臨むにあたり基本的な知識・技術を確認し、取得できることを目指す。
到達目標	臨床実習に臨むにあたり基本的に必要な知識・技術を備えている。 （医療面接を実践できる/はり・きゅう基本操作ができる/指示された徒手検査ができる）

回数	講義計画
第1回	医療面接
第2回	カルテ記載
第3回	鍼灸臨床におけるトリアージ
第4回	鍼灸臨床におけるトリアージ
第5回	はり・きゅう基本操作
第6回	はり・きゅう基本操作
第7回	選穴・切経
第8回	選穴・切経
第9回	バイタルサイン測定
第10回	バイタルサイン測定
第11回	神経学的所見
第12回	神経学的所見
第13回	徒手検査（整形学的検査）
第14回	徒手検査（整形学的検査）
第15回	徒手検査（整形学的検査）
第16回	評価（到達度の確認）

テキスト	
参考文献	教科書：経絡経穴概論、はりきゅう実技（基礎編）　はりきゅう実践実習１のプリント
評価基準	全ての実技チェック（実技試験）をクリア
履修上の注意	
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	2　　年	単位数	1　　単位
科目名	臨床実習2		講師名	井前・古田・日開	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	臨床実習	学期	通年	分野	専門分野
講義目的	医療、介護さらにはスポーツの現場において見学を中心とした実習を行う。				
到達目標	医療、介護およびスポーツ現場において鍼灸師としてやるべきこと・やれることが理解できる。評価				

回数	講義計画
第1回	現場実習（スポーツ現場、介護現場など）
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	
第16回	評価（到達度の確認）
テキスト	
参考文献	
評価基準	出席（全出席）、レポート課題
履修上の注意	服装や髪形など臨床にふさわしくない格好の際、実習を中止する。
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	2　　年	単位数	1　　単位
科目名	総合演習1		講師名	桑原、西村、古田	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	演習	学期	後期	分野	専門分野
講義目的	鍼灸の様々な分野に対して探求し説明する。（卒業研究）				
到達目標	興味のある分野・事象を決定し、実験プロトコルの作成・調査を進めることができる。				

回数	講義計画
第1回	オリエンテーション・卒業研究作成作業
第2回	卒業研究作成作業
第3回	卒業研究作成作業
第4回	卒業研究作成作業
第5回	卒業研究作成作業
第6回	卒業研究作成作業
第7回	卒業研究作成作業
第8回	卒業研究作成作業
第9回	卒業研究作成作業
第10回	卒業研究作成作業
第11回	卒業研究作成作業
第12回	卒業研究作成作業
第13回	卒業研究作成作業
第14回	卒業研究作成作業
第15回	卒業研究作成作業
第16回	評価（到達度の確認）
テキスト	
参考文献	
評価基準	出席率、作成・作業態度
履修上の注意	
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	2　　年	単位数	1　　単位
科目名	総合演習4		講師名	井前・加藤・椙棟	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	演習	学期	通年	分野	専門分野
講義目的	様々な学校行事や学外セミナーに参加することで鍼灸師として必要な人間性・素養を見つめなおし、身に付けることを目的とする。				
到達目標	鍼灸師として基本的な素養を身につけ、それにふさわしい言動を示すことができる。				

回数	講義計画
第1回	
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	文化祭 体育祭 卒業論文発表会　聴講 学校協会学術大会参加 行政解剖 学外セミナー
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	
第16回	評価（到達度の確認）

テキスト	
参考文献	
評価基準	出席率、レポート
履修上の注意	
備考	

講義計画（シラバス）

対象学科名	鍼灸　　学科	対象学年	2　　年	単位数	2　　単位
科目名	総合演習6（海外研修）		講師名	学科教員	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	研修	学期	随時：夏期	分野	演習
講義目的	国際的な視点から医療（解剖学）や鍼灸を考える機会とする。 相手校との学校間および学生間の交流の機会とする。				
到達目標					

回数	講義計画
第1回	海外研修（台湾での解剖学実習、鍼灸治療見学・体験　実習） 事前オリエンテーション
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	
第16回	評価（到達度の確認）
テキスト	
参考文献	
評価基準	参加態度、研修前に課されるレポート
履修上の注意	海外における集団行動のため自分勝手な行動を慎むこと
備考	